

進路支援通信 <NO.7>



湘南支援学校
支援連携グループ
進路支援班

SHONAN SHINROSHIEN NEWS LETTER

2024年3月22日

高等部3年生が3月7日に卒業しました。小学部から12年間通った生徒、中学部から6年間の生徒、高等部から3年間の生徒。それぞれの積み重ねを経て今があります。卒業2日前には、『1日限りのお店プロジェクト』と題し、高3生徒が縁日のようにお店を出して小学部のお客さんとやりとりをするという時間ももちました。異学年同士のかかわりは、たくさんの学びがありました。高校生にとっては、相手の立場を考えてふるまうこと、「ありがとう」って言ってもらえるとうれしい、という気持ちを味わうこと。小学部の児童にとっては、買い物スキルであったり、他者とのやりとりだったり。そしてよく知っている教員や友だち以外の人とコミュニケーションをとることは、小学生にとっても高校生にとっても、貴重な機会です。高校生たちは緊張しながらも、自分たちが一生懸命準備した商品(おりがみ製品)が選ばれる喜びを感じ、「ありがとう」の魔法にかけられて笑顔あふれる時間となりました。社会とつながる、仕事をする…その土台がそこに詰まっていたと思います。自立とは何か?という問いの答えはたくさんありますが、一つには、「人とつながる力」ではないかと思います。つながりたい、と思えるような経験をたくさん積んで、もっとかかわりたい、もっと誰かに喜んでほしい…それが「仕事をしたい」という意欲につながるのではないのでしょうか。今回お客さんだった小学生が、いつかお店やさんとしてお客さんを迎える側になるとき、「あの時の先輩たちみたいに…」と思い出してくれるようなきっかけになったらよいなと思っています。

さて、年度末最後の進路支援通信では、進路状況をお伝えします。個人情報保護の観点から、事業所名は掲載せず、事業形態と人数、主な活動を簡単にご紹介させていただきます。詳しく知りたいという方は、進路担当までお問い合わせください。

【令和5年度卒業生進路状況】



事業形態	主な活動・仕事内容	事業所の所在地	人数
地域活動支援センター	ボールペン等の組立、サンプル封入等の軽作業など	平塚市	4
生活介護	散歩、園芸活動、軽作業など	平塚市 大磯町	5
就労継続支援A型	清掃	秦野市	1
就労継続支援B型	部品組立、食品加工、農業、清掃、パソコン操作、公園清掃、自主制作等	平塚市	10
就労移行支援	部品組立、食品加工、施設外清掃等	平塚市	2
企業	店舗内清掃や商品検品等、事務作業	平塚市	2
職業訓練校	2年間の職業訓練、生活訓練(全寮制)	伊勢原市	1
未定			1

ちょこっと 解説

就労継続支援A型とは??…B型は福祉的就労で作業工賃をいただくのに対し、A型は福祉的就労でありながら雇用契約を結ぶことになり、最低賃金が保障されます。その分、支援員さんが少なく、求められる力も必要です。就業時間は1日4時間の所が多く、事業所の数も少ないのが現状です。短時間で仕事をしながら少しずつ力をつけていきたいという人に向いています。

就労移行支援とは??…企業実習を経験して、課題があることがわかった人などが、就職のための訓練をする場所です。仕事そのものだけでなく、仕事に必要なコミュニケーションやさまざまなソーシャルスキルなど、実践や模擬練習を重ねて学習していきます。利用は2年までという制限があるので、あともう少し練習すれば就職できそう、という人に向いています。

裏へ続く

TOPIC*1

「自分を知る」感覚プロフィール Before～After

各学部入学時、全員に「感覚プロフィール」という、感覚の特徴(敏感さや鈍感さなど)について調べる検査を実施しています。聴覚や視覚、触覚などさまざまな感覚に関する項目の質問で成り立っており、本人自身またはご家族がチェックして、自分のことを知る手立ての一つとしています。またそれを本校 船本 OT(作業療法士)と確認し、日常生活の中で感覚の苦手さがある場合にどのような工夫があるとよいかを一緒に考えたりもしています。

高等部3年生のあるグループが、この感覚プロフィールを高3時現在でもつけてみて、高1の時と変化があるかどうかを確かめる、という学習をしました。するとAさんは、以前人混みが苦手で、人との距離感もなるべく大きくとりたいと思っていたのが、最近は気にならなくなったと、経験によって自分の感覚が変化していることに気が付きました。一方Bさんは、自分の苦手な感覚がわかったことで、そういう環境には近づかないように対処するようになっていました。

どちらがよいとかいう話ではありません。感覚への過敏さや鈍麻などの感覚の受け取り方には個人差があり、他者からは理解しづらい辛さをもっている人もいます。経験によって慣れることもあるし、苦手さを上手く回避し、支援者側が環境調整することで和らぐこともあるので、それを相談してよいのです。現場実習に行った後には、作業内容だけでなく、その環境は自分に合っていたかという振り返りを、本人やご家族としています。環境とは、空間の広さ、人、におい、音、光、などなど いろいろな側面があります。気持ちが落ち着かないことがあるとしたら、それは活動の内容なのか、環境なのか、予測を立てつつ、そのことを実習先に相談することで、よりよい環境を一緒に考えていただくこともできます。仕事の内容や進路先の状況で、本人に必要な環境を整えることが難しい場合もあります。それでも本人が好きなことがそこにあって、環境に慣れていけるように補助的な手段を使っていくのか、本人が安心できる環境が整う別のところを選ぶのか…それも個々に違います。「こういう場所は苦手」だけど「これがあれば大丈夫」といった、感覚のヒントやアイテムをたくさん持っておくことは、選択肢を増やすことにもつながると思います。

TOPIC*2

「休憩する」って意外にむずかしい…

こんな生徒がいます。好きなことに夢中になると、ついつい時間を忘れて作業に没頭してしまい、休み時間の間もずっと作業…大人もうっかりすると「すごい集中力だね」と褒めてしまうこともあります。

でもちよつとまって！！それは「過集中」です。過集中は必ず疲れを呼び、疲れはその後の能率を下げることにもなり、結果的にミスにもつながります。てんかん発作がある人にとっては、疲れは発作の誘因にもなりやすくなります。

ある事業所では、作業の「終わり」が見てわかる形(このケースがいっぱいになったら、など)で伝えて、そこまですでにしたら休憩をする、ということをお願いしているというお話を伺いました。休憩をどう過ごすか？ということに課題がある人もいますが、それまで取り組んでいたものから離れること、好きなものを眺めること、など、休憩もスケジュールに組み込んで、「休憩する」を練習してみるとよいと思います。もちろん、休憩の終わりの時間も決めて、時間通りに約束の場所に戻れたら、たくさん褒めてあげましょう！ スマホやiPad以外の休憩方法も持っているとよいな～…本や外を眺める、絵を描く、トレーニンググッズ、感覚グッズ、おしゃべり…などなど。

春休みはおついで
「ありがとう」がいっぱい
なりますように

